

平成29年10月31日

佐野市議会議長 井川克彦様

経済文教常任委員会委員長 川嶋嘉一

経済文教常任委員会行政視察報告書

- 1 期 日 平成29年10月2日（月）及び同月3日（火）
- 2 視察地及び視察事項
  - (1) 愛知県豊田市  
「おいでん・さんそんセンターについて」
  - (2) 愛知県一宮市  
「小学校英語活動の充実について」
- 3 派遣委員 川嶋嘉一 委員長、横田誠 副委員長、本郷淳一 委員、  
高橋功 委員、鶴見義明 委員、篠原一世 委員
- 4 随行者 議事課 議事調査係 主事補 新里欣也
- 5 視察概要 別紙のとおり

## 豊田市視察概要

### (1) 愛知県豊田市

#### 豊田市の概要

- ・人口 423,916 人
- ・面積 918.32 km<sup>2</sup>
- ・議員定数 45 人
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額） 53 万円

#### 視察概要「おいでん・さんそんセンターについて」

##### ○内容

おいでん・さんそんセンターでは都市と農山村の交流をコーディネートする取り組みが行われています。当該施設は人や情報が集まるプラットフォーム的な拠点となっており、足助地区の山村と企業や団体、個人を結びつけながら山村地域活性の様々なプロジェクトを実施し、移住者を増やすなどの成果をあげています。佐野市としても中山間地域の人口減少対策案として参考にすべきとの考えから、視察を行うものです。

##### ○所感

おいでん・さんそんセンターは豊田市の足助地区に位置し、都市と山村を結びつけるプロジェクトを実施することで、年間150万人超の観光客を呼び込んでいます。しかしながら本市の中山間地域と同様に、足助地区も人口減少の問題に直面していました。そのため、豊田市全体だけでなく、山村地域だけの人口ビジョンを作成し、持続可能な山村地域づくりのための問題意識と将来像を市民へ発信していることや、合併特例債の全額を山村地域づくりへ投じるなど、いかに山村地域の振興を重視していることが伺えました。

おいでん・さんそんセンターの主な業務としては、「いなかとまちの交流コーディネート」、「いなか暮らし総合窓口」を市からの委託事業を受託し、一方では「支え合い社会」の研究・実践として市民主導による活動団体、研究者、市民、スタッフで構成するプラットフォーム会議を主体に6つの専門部会を設置し、地域スモールビジネス、移住定住、森づくり、食と農、次世代育成、セカンドスクール等々を行い活動の輪を市内外へと拡大していました。

また、特に注目すべき点として移住定住に関し、空き家の利用希望者と空き家がある地域の方を交えた地域面談を行うなど、定住後においても地域の生活文化、自然環境等への理解を深め、居住者として自覚を持って生活してもらえるような仕組みがなされていることです。

おいでん・さんそんセンターの取り組みは、本市での中山間地域の人口減少対策、空き家バンクの推進について非常に参考になるものでした。

## 一宮市視察概要

### (2) 愛知県一宮市

#### 一宮市の概要

- ・人口 386,094 人
- ・面積 113.82 km<sup>2</sup>
- ・議員定数 38 人
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額） 54 万 5 千円

#### 視察概要「小学校英語活動の充実について」

##### ○内容

一宮市の全小学校が教育課程特例校として文部科学省の認定を受け、小学校3年生からの英語活動科により系統的・計画的に英語教育を実施し、国際理解を深める様な、実践的な英語によるコミュニケーション能力を育成されているとのことであり、その取組を参考にし、本市の今後の英語の必修化、教科化を見据え、教育行政の更なる充実に資するべく、一宮市立木曾川小学校にてALTの実態を含め、教育現場を視察研修するものです。

##### ○所感

英語活動として「Hi Friends1・2」を使用し2時間で1つの内容を行うスタイルの授業となっていました。1時間目は担任とALT、2時間目は担任のみというスタイルです。こうした形で小学校3～6年生で年間35時間、隔週で18時間の担任とALTによる授業、17時間の担任による授業ということです。

実際の授業を参観させていただきましたが、授業では英語が楽しい、英語が好きと感じてもらうために、ペアワーク・ゲームでのコミュニケーションを大切にし、歌などで英語のリズム感を養い、多くの英語に触れる機会を増やす為に授業の進行は全て英語で行われていました。教材も先生方の手作りで子ども達の興味関心を高めているようです。学年ごとの子どもの成長過程に合わせた内容となっており、いきいきと子ども達が授業に臨む姿勢に感銘を受けました。その他にも、現在小学校には16名のALTによる、年間6時間の英会話授業、ALT授業プログラムによる授業を行ったり、夏休みや冬休みにALTによる児童生徒や保護者、地域の方々を対象として英語教室を実施するなどを行っています。こうした中、一宮市では2020年に向け、教員の指導力向上研修やALTの増員などを計画しているようです。

本市でも天明小学校が英語活動研究推進校に指定されていますが、2020年実施される3年生での必修化、5年生での教科化に向けて活かせる内容でありました。先進的な一宮市でも小学校のALTが16名であり、本市では12名と比較しても少ないと感じます。今後英語活動の充実を図るには、教員の指導力向上、ALTの増員等が肝であることを痛感した視察となりました。